

科目名	教育学概論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>現代的な教育の諸課題を多角的な視点で考察するために、教育の基本的概念を身につける。到達目標は以下の2点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の歴史の変遷と思想について説明することができる。 ・家族、子どもの歴史の変遷と思想について説明することができる。 	
授業概要	
<p>教育学の領域から、教育制度、教育方法、学校文化、家族に関連して、いくつかのトピックをとりあげ、その歴史や思想を学ぶことによって、教育の基本的概念や理念についての理解を深めることを目指す。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後ミニレポートを作成してもらいます。 <p>その内容が平常点に加算されます(提出しただけでは、点数になりませんので注意してください)。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点: 毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 授業態度等	45
授業中試験	55

教科書			
教科書1	指定しない。適宜、授業内でプリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育学とは何か キーワード: 教育制度、教育方法、教育史、教育思想
2	公教育の歴史と思想①—近代教育制度の成立 キーワード: 公教育、天皇主権、教育勅語、御真影、国定教科書
3	公教育の歴史と思想②—戦後教育改革 キーワード: 国民主権、教育を受ける権利、学習指導要領、検定教科書
4	教育評価の歴史と思想①—教育評価の変遷 キーワード: 教育評価、受験重視教育、一教科一評定主義、観点別評価
5	教育評価の歴史と思想②—新しい教育評価 キーワード: 新しい学力観、ポートフォリオ評価、ルーブリック、自己評価
6	特別支援教育の歴史と思想①—整備の遅れた障害のある子どもの教育 キーワード: 障害のある子どもの教育を受ける権利、特殊教育制度、就学義務の猶予・免除、分離教育、統合教育
7	特別支援教育の歴史と思想②—特殊教育から特別支援教育へ キーワード: ノーマライゼーションの思想、インクルーシブ教育、特別支援教育制度
8	特別支援教育の歴史と思想③—障害のある生徒への性教育 キーワード: 障害のある人の性、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、性教育
9	子どもと家族の歴史と思想①—家庭のしつけの今昔 キーワード: 近代以前の家族、働く子ども、近代家族、教育される子ども
10	子どもと家族の歴史と思想②—子どもの誕生 キーワード: 子ども観、アリエス、小さな大人、大人と区別されるべき存在としての子ども
11	子どもと家族の歴史と思想③—児童中心主義の教育思想 キーワード: 「子どもから」の教育、ルソー、デューイ、大正自由教育
12	子どもと家族の歴史の思想④—児童虐待

科目名	教育学概論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>現代的な教育の諸課題を多角的な視点で考察するために、教育の基本的概念を身につける。到達目標は以下の2点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の歴史の変遷と思想について説明することができる。 ・家族、子どもの歴史の変遷と思想について説明することができる。 	
授業概要	
<p>教育学の領域から、教育制度、教育方法、学校文化、家族に関連して、いくつかのトピックをとりあげ、その歴史や思想を学ぶことによって、教育の基本的概念や理念についての理解を深めることを目指す。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後ミニレポートを作成してもらいます。 <p>その内容が平常点に加算されます(提出しただけでは、点数になりませんので注意してください)。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点: 毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 授業態度等	45
授業中試験	55

教科書			
教科書1	指定しない。適宜、授業内でプリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育学とは何か キーワード: 教育制度、教育方法、教育史、教育思想
2	公教育の歴史と思想①—近代教育制度の成立 キーワード: 公教育、天皇主権、教育勅語、御真影、国定教科書
3	公教育の歴史と思想②—戦後教育改革 キーワード: 国民主権、教育を受ける権利、学習指導要領、検定教科書
4	教育評価の歴史と思想①—教育評価の変遷 キーワード: 教育評価、受験重視教育、一教科一評定主義、観点別評価
5	教育評価の歴史と思想②—新しい教育評価 キーワード: 新しい学力観、ポートフォリオ評価、ルーブリック、自己評価
6	特別支援教育の歴史と思想①—整備の遅れた障害のある子どもの教育 キーワード: 障害のある子どもの教育を受ける権利、特殊教育制度、就学義務の猶予・免除、分離教育、統合教育
7	特別支援教育の歴史と思想②—特殊教育から特別支援教育へ キーワード: ノーマライゼーションの思想、インクルーシブ教育、特別支援教育制度
8	特別支援教育の歴史と思想③—障害のある生徒への性教育 キーワード: 障害のある人の性、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、性教育
9	子どもと家族の歴史と思想①—家庭のしつけの今昔 キーワード: 近代以前の家族、働く子ども、近代家族、教育される子ども
10	子どもと家族の歴史と思想②—子どもの誕生 キーワード: 子ども観、アリエス、小さな大人、大人と区別されるべき存在としての子ども
11	子どもと家族の歴史と思想③—児童中心主義の教育思想 キーワード: 「子どもから」の教育、ルソー、デューイ、大正自由教育
12	子どもと家族の歴史の思想④—児童虐待

科目名	教育学概論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>現代的な教育の諸課題を多角的な視点で考察するために、教育の基本的概念を身につける。到達目標は以下の2点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の歴史の変遷と思想について説明することができる。 ・家族、子どもの歴史の変遷と思想について説明することができる。 	
授業概要	
<p>教育学の領域から、教育制度、教育方法、学校文化、家族に関連して、いくつかのトピックをとりあげ、その歴史や思想を学ぶことによって、教育の基本的概念や理念についての理解を深めることを目指す。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後ミニレポートを作成してもらいます。 <p>その内容が平常点に加算されます(提出しただけでは、点数になりませんので注意してください)。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点: 毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 授業態度等	45
授業内試験	55

教科書			
教科書1	指定しない。適宜、授業内でプリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育学とは何か キーワード: 教育制度、教育方法、教育史、教育思想
2	公教育の歴史と思想①—近代教育制度の成立 キーワード: 公教育、天皇主権、教育勅語、御真影、国定教科書
3	公教育の歴史と思想②—戦後教育改革 キーワード: 国民主権、教育を受ける権利、学習指導要領、検定教科書
4	教育評価の歴史と思想①—教育評価の変遷 キーワード: 教育評価、受験重視教育、一教科一評定主義、観点別評価
5	教育評価の歴史と思想②—新しい教育評価 キーワード: 新しい学力観、ポートフォリオ評価、ルーブリック、自己評価
6	特別支援教育の歴史と思想①—整備の遅れた障害のある子どもの教育 キーワード: 障害のある子どもの教育を受ける権利、特殊教育制度、就学義務の猶予・免除、分離教育、統合教育
7	特別支援教育の歴史と思想②—特殊教育から特別支援教育へ キーワード: ノーマライゼーションの思想、インクルーシブ教育、特別支援教育制度
8	特別支援教育の歴史と思想③—障害のある生徒への性教育 キーワード: 障害のある人の性、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、性教育
9	子どもと家族の歴史と思想①—家庭のしつけの今昔 キーワード: 近代以前の家族、働く子ども、近代家族、教育される子ども
10	子どもと家族の歴史と思想②—子どもの誕生 キーワード: 子ども観、アリエス、小さな大人、大人と区別されるべき存在としての子ども
11	子どもと家族の歴史と思想③—児童中心主義の教育思想 キーワード: 「子どもから」の教育、ルソー、デューイ、大正自由教育
12	子どもと家族の歴史の思想④—児童虐待

科目名	教職概論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>授業目的:進路選択の際、教職を一つの選択肢として考えることができるようになるため、教職についての正しい知識を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標:教職について多角的な視点から説明することができる。</p>	
授業概要	
<p>教職について、現代社会における特質、存在意義、歴史的変遷、職務内容、資質能力など、多角的な視点で考察していく。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>・毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
期末レポート	55
平常点:毎授業時に作成する小レポートの内容、授業態度等。	45

教科書			
教科書1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教職に就くということ キーワード: 教師イメージ、専門家としての教師、教職への進路
2	現代の教師①「ゆとり」について知っておくべきこと キーワード: 学習指導要領、受験重視教育への反省、ゆとり教育政策、学力低下不安
3	現代の教師② 保護者、子どもとの関係 キーワード: モンスターペアレント、失敗できない子育てプレッシャー、お客様意識の高まり、保護者との連携・協力
4	現代の教師③ 教師の負担と多忙感 キーワード: パーンアウト、全人教育、教師の仕事の拡大、学校教育への期待の拡大
5	現代の教師④チーム学校 キーワード: 校教育の役割の拡大、問題解決能力の向上、業務改善、学校内外の連携
6	歴史にみる教師像①—教師聖職者観 キーワード: 聖職者養成、人格者、寺子屋、教職の誇り
7	歴史にみる教師像②—戦前の教員養成システム キーワード: 師範学校令、人物主義、師範タイプ、知識人
8	歴史にみる教師像③—戦後の教員養成システム キーワード: 戦後教育改革、閉鎖型、開放型、教師労働者観
9	歴史にみる教師像④—奉仕者としての教師 キーワード: 服務、四つの義務、身分保障、人材確保法
10	教師の仕事①—学習指導 キーワード: 学習指導要領、教科書検定制度、年間指導計画、単元指導計画、学習指導案
11	教師の仕事②—生徒指導 キーワード: 体罰、懲戒行為、正当防衛・行為、愛のムチ論
12	教師の仕事③—進路指導 キーワード: 若者の就労問題、キャリア教育、職場体験、労働者としての権利教育
13	教師の資質と能力①—教師に求められているものとは何か キーワード: 資質能力の向上、研修、教育公務員特例法、学び続ける教師

科目名	教職概論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>授業目的:進路選択の際、教職を一つの選択肢として考えることができるようになるため、教職についての正しい知識を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標:教職について多角的な視点から説明することができる。</p>	
授業概要	
<p>教職について、現代社会における特質、存在意義、歴史的変遷、職務内容、資質能力など、多角的な視点で考察していく。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>・毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
期末レポート	55
平常点:毎授業時に作成する小レポートの内容、授業態度等。	45

教科書			
教科書1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教職に就くということ キーワード: 教師イメージ、専門家としての教師、教職への進路
2	現代の教師①「ゆとり」について知っておくべきこと キーワード: 学習指導要領、受験重視教育への反省、ゆとり教育政策、学力低下不安
3	現代の教師② 保護者、子どもとの関係 キーワード: モンスターペアレント、失敗できない子育てプレッシャー、お客様意識の高まり、保護者との連携・協力
4	現代の教師③ 教師の負担と多忙感 キーワード: パーンアウト、全人教育、教師の仕事の拡大、学校教育への期待の拡大
5	現代の教師④チーム学校 キーワード: 校教育の役割の拡大、問題解決能力の向上、業務改善、学校内外の連携
6	歴史にみる教師像①—教師聖職者観 キーワード: 聖職者養成、人格者、寺子屋、教職の誇り
7	歴史にみる教師像②—戦前の教員養成システム キーワード: 師範学校令、人物主義、師範タイプ、知識人
8	歴史にみる教師像③—戦後の教員養成システム キーワード: 戦後教育改革、閉鎖型、開放型、教師労働者観
9	歴史にみる教師像④—奉仕者としての教師 キーワード: 服務、四つの義務、身分保障、人材確保法
10	教師の仕事①—学習指導 キーワード: 学習指導要領、教科書検定制度、年間指導計画、単元指導計画、学習指導案
11	教師の仕事②—生徒指導 キーワード: 体罰、懲戒行為、正当防衛・行為、愛のムチ論
12	教師の仕事③—進路指導 キーワード: 若者の就労問題、キャリア教育、職場体験、労働者としての権利教育
13	教師の資質と能力①—教師に求められているものとは何か キーワード: 資質能力の向上、研修、教育公務員特例法、学び続ける教師

14	<p>教師の資質と能力②—制度改革からみえるもの</p> <p>キーワード: 資質能力の刷新、免許更新制度、指導力不足教員問題</p>
15	<p>教師の資質と能力③—評価の時代の教師たち</p> <p>キーワード: 教員評価、教師の質の向上問題、授業評価、教職の自律性</p>

科目名	教職概論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>授業目的:進路選択の際、教職を一つの選択肢として考えることができるようになるため、教職についての正しい知識を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標:教職について多角的な視点から説明することができる。</p>	
授業概要	
<p>教職について、現代社会における特質、存在意義、歴史的変遷、職務内容、資質能力など、多角的な視点で考察していく。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>・毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
期末レポート	55
平常点:毎授業時に作成する小レポートの内容、授業態度等。	45

教科書			
教科書1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教職に就くということ キーワード: 教師イメージ、専門家としての教師、教職への進路
2	現代の教師①「ゆとり」について知っておくべきこと キーワード: 学習指導要領、受験重視教育への反省、ゆとり教育政策、学力低下不安
3	現代の教師② 保護者、子どもとの関係 キーワード: モンスターペアレント、失敗できない子育てプレッシャー、お客様意識の高まり、保護者との連携・協力
4	現代の教師③ 教師の負担と多忙感 キーワード: パーンアウト、全人教育、教師の仕事の拡大、学校教育への期待の拡大
5	現代の教師④チーム学校 キーワード: 校教育の役割の拡大、問題解決能力の向上、業務改善、学校内外の連携
6	歴史にみる教師像①—教師聖職者観 キーワード: 聖職者養成、人格者、寺子屋、教職の誇り
7	歴史にみる教師像②—戦前の教員養成システム キーワード: 師範学校令、人物主義、師範タイプ、知識人
8	歴史にみる教師像③—戦後の教員養成システム キーワード: 戦後教育改革、閉鎖型、開放型、教師労働者観
9	歴史にみる教師像④—奉仕者としての教師 キーワード: 服務、四つの義務、身分保障、人材確保法
10	教師の仕事①—学習指導 キーワード: 学習指導要領、教科書検定制度、年間指導計画、単元指導計画、学習指導案
11	教師の仕事②—生徒指導 キーワード: 体罰、懲戒行為、正当防衛・行為、愛のムチ論
12	教師の仕事③—進路指導 キーワード: 若者の就労問題、キャリア教育、職場体験、労働者としての権利教育
13	教師の資質と能力①—教師に求められているものとは何か キーワード: 資質能力の向上、研修、教育公務員特例法、学び続ける教師

科目名	教育社会学	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>社会に氾濫する、様々な教育言説に惑わされることなく、現代の学校教育の課題に対して客観的に向き合うために、教育という営みを社会事象の一つとして認識し、その構造、機能や意味を考察する。到達目標は以下の通り。</p> <p>・教育格差、ジェンダー、子ども・若者「問題」、教育改革、これら授業でとりあげた教育事象について社会とのかかわりから説明することができる</p>	
授業概要	
<p>「教師聖職論」に象徴されるように、伝統的に教育は聖なる営みと見なされてきた。人々は聖なる教育に対し大きな期待を抱くがゆえに、そこにあてはまらない教育事象を「問題」視する。本講義では、複数の教育事象を取り上げ、教育を聖なるものとしてではなく、社会事象の一つとしてとらえ、そのありのままを観察し、分析する。そのうえで、あらためて教育の何が「問題」で何が「問題」でないのかを考察していきたい。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>・毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点: 毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 等	45
期末レポート	55

教科書			
教科書1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育社会学とは何か キーワード: 教育から社会へ、社会から教育へ、教育の中の社会
2	教育格差と社会—現代社会における「格差」の実態 キーワード: 格差社会論、教育の格差論、学力調査、家庭環境と学力の関連性
3	教育格差と社会—学力格差・意欲格差・希望格差 キーワード: 保護者の教育願望、貧困家庭、学習阻害要因、機会の不平等
4	教育格差と社会—格差の縮小を目指して キーワード: ヘッド・スタート計画、教育アクション地域、子どもの貧困対策の推進に関する法律、力のある学校
5	ジェンダーと社会—男女別のカリキュラム キーワード: ジェンダー、性別役割分業観、中学校、高等女学校、家庭科
6	ジェンダーと社会—かくれたカリキュラム キーワード: 男女を分けない教育、かくれたカリキュラム、ジェンダー・バイアス、進路選択
7	ジェンダーと社会—ジェンダーに敏感な教育 キーワード: 「男子問題」、性的マイノリティ、ジェンダーに敏感な教育、男女平等教育
8	子ども・若者「問題」と社会—家庭の教育力は低下したのか キーワード: 地域社会における産育、家庭の教育戦略、親役割の拡大、家族の多様化
9	子ども・若者「問題」と社会—青少年凶悪化言説を問い直す キーワード: 少年犯罪の実態、若者への社会的関心の高まり、神戸連続児童殺傷事件、少年犯罪報道の問題点

科目名	教育社会学	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>社会に氾濫する、様々な教育言説に惑わされることなく、現代の学校教育の課題に対して客観的に向き合うために、教育という営みを社会事象の一つとして認識し、その構造、機能や意味を考察する。到達目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育格差、ジェンダー、子ども・若者「問題」、教育改革、これら授業でとりあげた教育事象について社会とのかかわりから説明することができる 	
授業概要	
<p>「教師聖職論」に象徴されるように、伝統的に教育は聖なる営みと見なされてきた。人々は聖なる教育に対し大きな期待を抱くがゆえに、そこにあてはまらない教育事象を「問題」視する。本講義では、複数の教育事象を取り上げ、教育を聖なるものとしてではなく、社会事象の一つとしてとらえ、そのありのままを観察し、分析する。そのうえで、あらためて教育の何が「問題」で何が「問題」でないのかを考察していきたい。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること 	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点: 毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 等	45
期末レポート	55

教科書			
教科書1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育社会学とは何か キーワード: 教育から社会へ、社会から教育へ、教育の中の社会
2	教育格差と社会—現代社会における「格差」の実態 キーワード: 格差社会論、教育の格差論、学力調査、家庭環境と学力の関連性
3	教育格差と社会—学力格差・意欲格差・希望格差 キーワード: 保護者の教育願望、貧困家庭、学習阻害要因、機会の不平等
4	教育格差と社会—格差の縮小を目指して キーワード: ヘッド・スタート計画、教育アクション地域、子どもの貧困対策の推進に関する法律、力のある学校
5	ジェンダーと社会—男女別のカリキュラム キーワード: ジェンダー、性別役割分業観、中学校、高等女学校、家庭科
6	ジェンダーと社会—かくれたカリキュラム キーワード: 男女を分けない教育、かくれたカリキュラム、ジェンダー・バイアス、進路選択
7	ジェンダーと社会—ジェンダーに敏感な教育 キーワード: 「男子問題」、性的マイノリティ、ジェンダーに敏感な教育、男女平等教育
8	子ども・若者「問題」と社会—家庭の教育力は低下したのか キーワード: 地域社会における産育、家庭の教育戦略、親役割の拡大、家族の多様化
9	子ども・若者「問題」と社会—青少年凶悪化言説を問い直す キーワード: 少年犯罪の実態、若者への社会的関心の高まり、神戸連続児童殺傷事件、少年犯罪報道の問題点

科目名	人権教育論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度前期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>1)日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2)人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3)現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4)すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。</p>	
授業概要	
<p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等の参加型体験学習法を取り入れる。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
毎時の指定されたテーマについて、テキストを事前に読んでおくこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
感想カード	50%
レポート課題	50%

教科書			
教科書1	『人権教育への招待ーダイバーシティの未来をひらく』2019年		
出版社名	解放出版社	著者名	神村早織・森実編著
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
<p>人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm</p> <p>人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 補足資料 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200310-mxt_jidou02-000100368_01.pdf</p> <p>人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.</p>
特記事項
<p>フィールドワークや特別講義への参加を奨励。</p>
教員実務経験
<p>日本国内の同和教育を始め海外において、障がいのある人、難民、移民の方々への就労支援、国際人権基準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。</p>

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の概要、自己紹介、 序章 人権教育とは何か パート1: 人権教育の歴史的背景
2	序章 人権教育とは何か パート2: 国内人権教育の4側面
3	序章 人権教育とは何か パート3: 国際的な人権教育確立の動向
4	第1章 学校・子ども・人権 「子どもの人権」
5	第1章 学校・子ども・人権 「障害者と人権」
6	第1章 学校・子ども・人権 「在日外国人と多文化共生」
7	第1章 学校・子ども・人権 「部落差別と人権」
8	第1章 学校・子ども・人権 「ジェンダーとセクシュアリティ」
9	補足「アイヌ民族と人権」
10	第2章 人権を学ぶ基礎概念
11	第3章 同和教育実践の再発見
12	第4章 生活を通して子どもをつなぐ集団づくり
13	第5章 人権学習を作る視点と方法
14	第6章 地域とつながる人権教育
15	第7章 人権教育の現代的課題

科目名	人権教育論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>1)日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2)人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3)現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4)すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。</p>	
授業概要	
<p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等の参加型体験学習法を取り入れる。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
毎時の指定されたテーマについて、テキストを事前に読んでおくこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
感想カード	50%
レポート課題	50%

教科書			
教科書1	『人権教育への招待 ーダイバーシティの未来をひらく』 2019年		
出版社名	解放出版社	著者名	神村早織・森実編著
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
<p>人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm</p> <p>人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 補足資料 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200310-mxt_jidou02-000100368_01.pdf</p> <p>人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.</p>
特記事項
<p>フィールドワークや特別講義への参加を奨励。</p>
教員実務経験
<p>日本国内の同和教育を始め海外において、障がいのある人、難民、移民の方々への就労支援、国際人権基準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。</p>

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の概要、自己紹介、 序章 人権教育とは何か パート1: 人権教育の歴史的背景
2	序章 人権教育とは何か パート2: 国内人権教育の4側面
3	序章 人権教育とは何か パート3: 国際的な人権教育確立の動向
4	第1章 学校・子ども・人権 「子どもの人権」
5	第1章 学校・子ども・人権 「障害者と人権」
6	第1章 学校・子ども・人権 「在日外国人と多文化共生」
7	第1章 学校・子ども・人権 「部落差別と人権」
8	第1章 学校・子ども・人権 「ジェンダーとセクシュアリティ」
9	補足「アイヌ民族と人権」
10	第2章 人権を学ぶ基礎概念
11	第3章 同和教育実践の再発見
12	第4章 生活を通して子どもをつなぐ集団づくり
13	第5章 人権学習を作る視点と方法
14	第6章 地域とつながる人権教育
15	第7章 人権教育の現代的課題

科目名	人権教育論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>1)日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2)人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3)現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4)すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。</p>	
授業概要	
<p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等の参加型体験学習法を取り入れる。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
毎時の指定されたテーマについて、テキストを事前に読んでおくこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
感想カード	50%
レポート課題	50%

教科書			
教科書1	『人権教育への招待 ーダイバーシティの未来をひらく』 2019年		
出版社名	解放出版社	著者名	神村早織・森実編著
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
<p>人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm</p> <p>人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 補足資料 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200310-mxt_jidou02-000100368_01.pdf</p> <p>人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.</p>
特記事項
<p>フィールドワークや特別講義への参加を奨励。</p>
教員実務経験
<p>日本国内の同和教育を始め海外において、障がいのある人、難民、移民の方々への就労支援、国際人権基準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。</p>

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の概要、自己紹介、 序章 人権教育とは何か パート1: 人権教育の歴史的背景
2	序章 人権教育とは何か パート2: 国内人権教育の4側面
3	序章 人権教育とは何か パート3: 国際的な人権教育確立の動向
4	第1章 学校・子ども・人権 「子どもの人権」
5	第1章 学校・子ども・人権 「障害者と人権」
6	第1章 学校・子ども・人権 「在日外国人と多文化共生」
7	第1章 学校・子ども・人権 「部落差別と人権」
8	第1章 学校・子ども・人権 「ジェンダーとセクシュアリティ」
9	補足「アイヌ民族と人権」
10	第2章 人権を学ぶ基礎概念
11	第3章 同和教育実践の再発見
12	第4章 生活を通して子どもをつなぐ集団づくり
13	第5章 人権学習を作る視点と方法
14	第6章 地域とつながる人権教育
15	第7章 人権教育の現代的課題

科目名	人権教育論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>1)日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2)人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3)現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4)すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。</p>	
授業概要	
<p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等の参加型体験学習法を取り入れる。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
毎時の指定されたテーマについて、テキストを事前に読んでおくこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
感想カード	50%
レポート課題	50%

教科書			
教科書1	『人権教育への招待 ーダイバーシティの未来をひらく』 2019年		
出版社名	解放出版社	著者名	神村早織・森実編著
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
<p>人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm</p> <p>人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 補足資料 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200310-mxt_jidou02-000100368_01.pdf</p> <p>人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.</p>
特記事項
<p>フィールドワークや特別講義への参加を奨励。</p>
教員実務経験
<p>日本国内の同和教育を始め海外において、障がいのある人、難民、移民の方々への就労支援、国際人権基準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。</p>

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の概要、自己紹介、 序章 人権教育とは何か パート1: 人権教育の歴史的背景
2	序章 人権教育とは何か パート2: 国内人権教育の4側面
3	序章 人権教育とは何か パート3: 国際的な人権教育確立の動向
4	第1章 学校・子ども・人権 「子どもの人権」
5	第1章 学校・子ども・人権 「障害者と人権」
6	第1章 学校・子ども・人権 「在日外国人と多文化共生」
7	第1章 学校・子ども・人権 「部落差別と人権」
8	第1章 学校・子ども・人権 「ジェンダーとセクシュアリティ」
9	補足「アイヌ民族と人権」
10	第2章 人権を学ぶ基礎概念
11	第3章 同和教育実践の再発見
12	第4章 生活を通して子どもをつなぐ集団づくり
13	第5章 人権学習を作る視点と方法
14	第6章 地域とつながる人権教育
15	第7章 人権教育の現代的課題

科目名	教育心理学	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	山口 恵				
クラス名					

授業目的と到達目標	
教育心理学とは、乳児期から青年期にかけての人間のこころの発達と教育との関係に着目した学びである。教育に関わる様々な問題について、心理学的な観点から考察する。教育心理学に関する基本的な知識の習得や、用語を理解し、教育現場にでた際には、その知見を応用できることを目標とする。	
授業概要	
基本的には講義形式であるが、教育心理学をより深く学ぶために、ワークショップや映像なども、積極的に取り入れていく。講義内容やその進度は、受講生の理解度や姿勢に応じて変更することがある。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
事前に講義資料を配信することがある。教科書と合わせて目を通すこと。授業中はノートを取り、授業後には適宜、内容を見直すことが好ましい。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
主体的な授業参加	30
試験	70

教科書			
教科書1	よくわかる教育心理学 第2版		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	中澤潤 編著
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
臨床心理士 公認心理師 スクールカウンセラー

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育心理学とはなにか オリエンテーション
2	発達について① 発達とはなにか、主に乳児期～青年期までの発達について学ぶ
3	発達について② 基本的な発達課題について学ぶ ピアジェ、エリクソン、フロイト等
4	学習について① 記憶の種類や仕組みについて 基本的な学習理論について学ぶ
5	学習について② 学習指導と学習評価について 動機づけについて学ぶ
6	知能について 知能および知能検査、IQ の表示法について学ぶ
7	特別支援教育について 特別支援教育の実際について学ぶ
8	こどもの精神疾患について こどもによくみられる心身症をはじめとする精神疾患について学ぶ
9	学級集団について 学校における基本的集団である学級について学ぶ
10	適応への支援と理解① 虐待やヤングケアラー、こどもの貧困等について学ぶ
11	適応への支援と理解② 不登校について学ぶ
12	教師の役割について 学校における教師の役割について学ぶ
13	スクールカウンセリングについて スクールカウンセリングとチーム学校について学ぶ

科目名	教育心理学	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 前期	形態	講義		
教員名	山口 恵				
クラス名					

授業目的と到達目標	
教育心理学とは、乳児期から青年期にかけての人間のこころの発達と教育との関係に着目した学びである。教育に関わる様々な問題について、心理学的な観点から考察する。教育心理学に関する基本的な知識の習得や、用語を理解し、教育現場にでた際には、その知見を応用できることを目標とする。	
授業概要	
基本的には講義形式であるが、教育心理学をより深く学ぶために、ワークショップや映像なども、積極的に取り入れていく。講義内容やその進度は、受講生の理解度や姿勢に応じて変更することがある。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
事前に講義資料を配信することがある。教科書と合わせて目を通すこと。授業中はノートを取り、授業後には適宜、内容を見直すことが好ましい。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
主体的な授業参加	30
試験	70

教科書			
教科書1	よくわかる教育心理学 第2版		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	中澤潤 編著
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
臨床心理士 公認心理師 スクールカウンセラー

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育心理学とはなにか オリエンテーション
2	発達について① 発達とはなにか、主に乳児期～青年期までの発達について学ぶ
3	発達について② 基本的な発達課題について学ぶ ピアジェ、エリクソン、フロイト等
4	学習について① 記憶の種類や仕組みについて 基本的な学習理論について学ぶ
5	学習について② 学習指導と学習評価について 動機づけについて学ぶ
6	知能について 知能および知能検査、IQ の表示法について学ぶ
7	特別支援教育について 特別支援教育の実際について学ぶ
8	こどもの精神疾患について こどもによくみられる心身症をはじめとする精神疾患について学ぶ
9	学級集団について 学校における基本的集団である学級について学ぶ
10	適応への支援と理解① 虐待やヤングケアラー、こどもの貧困等について学ぶ
11	適応への支援と理解② 不登校について学ぶ
12	教師の役割について 学校における教師の役割について学ぶ
13	スクールカウンセリングについて スクールカウンセリングとチーム学校について学ぶ

科目名	教育心理学	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	山口 恵				
クラス名					

授業目的と到達目標					
教育心理学とは、乳児期から青年期にかけての人間のこころの発達と教育との関係に着目した学びである。教育に関わる様々な問題について、心理学的な観点から考察する。教育心理学に関する基本的な知識の習得や、用語を理解し、教育現場にでた際には、その知見を応用できることを目標とする。					
授業概要					
基本的には講義形式であるが、教育心理学をより深く学ぶために、ワークショップや映像なども、積極的に取り入れていく。講義内容やその進度は、受講生の理解度や姿勢に応じて変更することがある。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
事前に講義資料を配信することがある。教科書と合わせて目を通すこと。授業中はノートを取り、授業後には適宜、内容を見直すことが好ましい。					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
主体的な授業参加	30
試験	70

教科書			
教科書1	よくわかる教育心理学 第2版		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	中澤潤 編著
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
臨床心理士 公認心理師 スクールカウンセラー

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育心理学とはなにか オリエンテーション
2	発達について① 発達とはなにか、主に乳児期～青年期までの発達について学ぶ
3	発達について② 基本的な発達課題について学ぶ ピアジェ、エリクソン、フロイト等
4	学習について① 記憶の種類や仕組みについて 基本的な学習理論について学ぶ
5	学習について② 学習指導と学習評価について 動機づけについて学ぶ
6	知能について 知能および知能検査、IQ の表示法について学ぶ
7	特別支援教育について 特別支援教育の実際について学ぶ
8	こどもの精神疾患について こどもによくみられる心身症をはじめとする精神疾患について学ぶ
9	学級集団について 学校における基本的集団である学級について学ぶ
10	適応への支援と理解① 虐待やヤングケアラー、こどもの貧困等について学ぶ
11	適応への支援と理解② 不登校について学ぶ
12	教師の役割について 学校における教師の役割について学ぶ
13	スクールカウンセリングについて スクールカウンセリングとチーム学校について学ぶ

科目名	特別支援教育理論【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 前期	形態	講義		
教員名	家門 鉄治				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。</p>	
授業概要	
<p>[対面授業]</p> <p>特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかり取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
定期試験	
提出物	60
授業態度	40

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名1	「はじめての特別支援教育-教職を目指す大学生のために」改訂版

出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子(編)
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは、「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHD の三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援: 知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援: 教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括: 障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整

科目名	特別支援教育理論【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	家門 鉄治				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。</p>	
授業概要	
<p>[対面授業]</p> <p>特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかり取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
定期試験	
提出物	60
授業態度	40

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名1	「はじめての特別支援教育-教職を目指す大学生のために」改訂版

出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子(編)
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは、「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHD の三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援: 知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援: 教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括: 障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整

科目名	特別支援教育理論【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	家門 鉄治				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。</p>	
授業概要	
<p>[対面授業]</p> <p>特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかり取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
定期試験	
提出物	60
授業態度	40

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名1	「はじめての特別支援教育-教職を目指す大学生のために」改訂版

出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子(編)
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは、「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHD の三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援: 知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援: 教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括: 障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整

科目名	教育課程総論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度前期	形態	講義		
教員名	吉田 茂孝				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>本授業のテーマは、学習指導要領と教育課程の編成原理と教育課程編成・マネジメントについて学ぶということにある。よって、本授業の到達目標は次のとおりである。(1)学習指導要領についての基本的な知識・理解を身につける、(2)教育課程の編成原理について理解し、それぞれを関連付けて自ら教育課程編成について考えることができる、(3)教育課程編成の方法やマネジメントの方法について理解する。</p>	
授業概要	
<p>対面授業 本授業では主として、①学習指導要領の意義とその特徴に関する基本的な理解、②教育課程の編成原理のそれぞれの特徴、③それらに関する歴史的展開をふまえた今日の編成原理に関する考え方について、理解することをねらいとする。そのために、学習指導要領およびその解説、教育課程の編成原理に関する資料、カリキュラム・マネジメントに関する資料を用いて、講義形式と演習形式の両方を取り入れた学習を行う。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>授業の最初に講義のテーマを予告するので、それに関する予習をしておくこと。また、履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
毎回の授業での小レポート・レポート	45
テスト	55

教科書			
教科書1	中学校学習指導要領(平成29年告示)		
出版社名		著者名	
教科書2	高等学校学習指導要領(平成30年告示)		
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『よくわかる教育課程 第2版』		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中耕治編
参考書名2	『よくわかる教育評価 第2版』		

科目名	教育課程総論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 前期	形態	講義		
教員名	北川 剛司				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>本授業のテーマは、学習指導要領と教育課程の編成原理と教育課程編成・マネジメントについて学ぶということにある。よって、本授業の到達目標は次のとおりである。(1)学習指導要領についての基本的な知識・理解を身につける、(2)教育課程の編成原理について理解し、それぞれを関連付けて自ら教育課程編成について考えることができる、(3)教育課程編成の方法やマネジメントの方法について理解する。</p>	
授業概要	
<p>対面授業</p> <p>本授業では主として、①学習指導要領の意義とその特徴に関する基本的な理解、②教育課程の編成原理のそれぞれの特徴、③それらに関する歴史的展開をふまえた今日の編成原理に関する考え方について、理解することをねらいとする。そのために、学習指導要領およびその解説、教育課程の編成原理に関する資料、カリキュラム・マネジメントに関する資料を用いて、講義形式と演習形式の両方を取り入れた学習を行う。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>授業の最初に講義のテーマを予告するので、それに関する予習をしておくこと。また、履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
毎回の授業での小レポート・レポート	60
テスト	40

教科書			
教科書1	中学校学習指導要領総則編(平成29年告示)		
出版社名		著者名	
教科書2	高等学校学習指導要領総則編(平成30年告示)		
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『よくわかる教育課程 第2版』		
出版社名	ミネルヴァ書房、2018年	著者名	田中耕治編
参考書名2	『よくわかる教育評価 第3版』		
出版社名	ミネルヴァ書房、2021年	著者名	田中耕治編
参考書名3	『岩波講座 教育変革への展望5 学びとカリキュラム』		
出版社名	『岩波講座 教育変革への展望5 学びとカリキュラム』	著者名	秋田喜代美編
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育課程と学習指導要領に関する基本的理解
2	新学習指導要領の特徴
3	教育課程(カリキュラム)の展開(1)―意図したカリキュラム―
4	教育課程(カリキュラム)の展開(2)―実施/達成したカリキュラム―
5	中間まとめ―教育課程と学習指導要領の関連―
6	教育課程の変遷(1)―経験主義―
7	教育課程の変遷(2)―系統主義―
8	教育課程の変遷(3)―新しい力と学力低下論争―
9	教育課程の変遷(4)―コンピテンシーの育成―
10	中間まとめ―教育課程編成の特徴―
11	教育課程と学力形成―学びからの逃走―
12	教育課程と学力形成―学力低下と学びの質―
13	教育課程と学力形成―PISA とキー・コンピテンシー―
14	教育評価の目的と方法
15	全体のまとめ―教育課程編成の意義と課題―

科目名	道徳指導法	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名	20927 道徳指導法				

授業目的と到達目標	
<p>「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35 分の 1 の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する道徳」の授業とはどういうものかを実践的に試し、指導力を身に付ける。</p>	
授業概要	
<p>「特別の教科 道徳」の必要性およびそのあり方について、理論的に検討すると共に、それに則した授業展開について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
ペーパーテスト	30
指導案作成	40
各授業の感想文	30

教科書			
教科書1	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	小学校教員、管理職等として 40 年間、道徳教育・道徳科に関わって研究を進めてきた経験を生かして、道徳科の授業のあり方について、習得させる。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例示を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。
2	「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。
3	「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。
4	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的なイメージを持つ。
5	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。
6	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして生徒が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。
7	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤ ・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。
9	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥ ・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。
10	「模擬授業に挑戦しよう。」①

科目名	道徳指導法	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名	20929 道徳指導法				

授業目的と到達目標	
<p>「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35 分の 1 の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する」道徳の授業とはどういうものかを実践的に試行し、指導力を身に付ける。</p>	
授業概要	
<p>「特別の教科 道徳」のあり方について理論的に検討すると共に、それに則した授業のあり方について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等、現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
ペーパーテスト	30
指導案作成	40
各授業の感想文	30

教科書			
教科書1	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	小学校教員、管理職等として 40 年間、道徳教育・道徳科に関わって研究を進めてきた経験を生かして、道徳科の授業のあり方について、習得させる。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例示を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。
2	「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。
3	「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。
4	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的イメージを持つ。
5	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。
6	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして生徒が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。
7	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤ ・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。
9	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥ ・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。

科目名	道徳指導法	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名	20928 道徳指導法				

授業目的と到達目標	
<p>「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35 分の 1 の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する」道徳の授業とはどういうものかを実践的に試行し、指導力を身に付ける。</p>	
授業概要	
<p>「特別の教科 道徳」のあり方について理論的に検討すると共に、それに則した授業のあり方について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
ペーパーテスト	30
指導案作成	40
各授業の感想文	30

教科書			
教科書1	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	小学校教員、管理職等として 40 年間、道徳教育・道徳科に関わって研究を進めてきた経験を生かして、道徳科の授業のあり方について、習得させる。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例示を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。
2	「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。
3	「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。
4	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的なイメージを持つ。
5	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。
6	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして生徒が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。
7	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤ ・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。
9	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥ ・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。
10	「模擬授業に挑戦しよう。」①

科目名	総合的な学習の時間の指導法【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
授業概要	
[対面授業]	
<ul style="list-style-type: none"> 課題を探求し、様々な視点から考察、分析を行い探求する学びを深める 指導案作成、模擬授業などの実践を通じて学校教育の中で付けるべき力を考える 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
積極的な姿勢でしっかりとしたプレゼンテーションを行う	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
指導案・模擬授業・レポート・提出物等	60
平常点	40

教科書			
教科書1	学習指導要領解説—総合的な学習の時間編		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

科目名	総合的な学習の時間の指導法【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
授業概要	
<p>[対面授業]</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を探究し、様々な視点から考察、分析を行い探究する学びを深める 指導案作成、模擬授業などの実践を通じて学校教育の中で付けるべき力を考える 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
積極的な姿勢でしっかりとしたプレゼンテーションを行う	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
指導案・模擬授業・レポート・提出物等	60
平常点	40

教科書			
教科書1	学習指導要領解説—総合的な学習の時間編		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

科目名	総合的な学習の時間の指導法【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
授業概要	
[対面授業]	
<ul style="list-style-type: none"> 課題を探求し、様々な視点から考察、分析を行い探求する学びを深める 指導案作成、模擬授業などの実践を通じて学校教育の中で付けるべき力を考える 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
積極的な姿勢でしっかりとしたプレゼンテーションを行う	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
指導案・模擬授業・レポート・提出物等	60
平常点	40

教科書			
教科書1	学習指導要領解説—総合的な学習の時間編		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

科目名	特別活動指導法	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度前期	形態	講義		
教員名	加納 明彦				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>特別活動は「なすことによって学ぶ」を基調においた学びです。学校での様々な集団活動を通して、課題の発見や解決を経験する事で、自らが属す集団に貢献したいという意欲・態度とそのためスキルを身につける事を目標にしている。学級活動、生徒会活動、学校行事を通じて「何が出来るようになるのか」「何を学ぶか」「どのようにまなぶか」をふまえて、育成すべき資質・能力を知って特別活動への実践的な姿勢と企画力をつける事が目標です。</p>	
授業概要	
<p>対面での授業になります。</p> <p>「なすことによって学ぶ」というのが特別活動の特徴です。この授業は、受講者自身の実践を大事にします。同時に、特別活動は、広い分野の教育活動に繋がっています。広い視野で子どもの社会的な自立を支援する姿勢を育てるために。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ別に分かれてワークショップ形式で企画作りや発表などをおこなう。 ・外部からのゲストティーチャーの協力を得て実際の取り組みの課題を深める。 ・タイムリーな教材を入れるのでシラバスの変更することもあります。 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加して一緒に考えることが一番大事です。欠席しないこと。 ・特に必要な場合は、事前に読んでおくべき教材を渡します。 ・グループで話し合う機会があります。積極的に参加してください。 ・平常点の中身は、授業ごとの振り返り課題、対話やワークへの参加度、数回ある「行事の企画案作り」等の課題も含まれます。 	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	50
レポートによる試験	50

教科書			
教科書1	特にありません。適時プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	「中学校学習指導要領解説 特別活動編」		
出版社名	東山書房	著者名	文部科学省
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	対面での授業になります。
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	特別活動の指導要領上の位置付けと教育目標を理解する。受講生それぞれの、今までの学習経験を振り返り、どのような活動が、特別活動であったかを振り返る。特別活動が実際に展開される場が、学級活動・生徒会活動・学校行事であること、ここでの活動が学校全体の教育課程の遂行の中での重要な位置であることを理解させる。(基礎 1)
2	新学習指導要領改訂による特別活動で育てたい資質・能力の具体について、従来の指導要領の「望ましい集団活動を通して」との教育目標の継承発展の視点で理解する。(基礎 2)
3	改訂の中心となる考え方である「社会に開かれた教育課程」についてその意義と具体的な内容を理解する。地元の学校で活動している SSW やサポーターの実践例を知り社会に開かれた学校の意義を理解する。(基礎 3)
4	特別活動の教育理念の基底にある「なすことによって学ぶ」の意味について、体験学習のプロセスの理解や、PDCA サイクルを学ぶことによって、特別活動のカリキュラムを効果的に構成するマネジメントの発想を学ぶ。(基礎 4)
5	学級活動は、特別活動が展開される拠点である。学級は、生徒にとっては身近な社会生活と言える。学級づくりを通しての人間関係の築き方などを学ぶ。そこで育てた力が実社会に出ても活用できる力に繋がる。支持的風土の醸成された学級づくりに向けた学級活動の課題と目標について理解する。担任として育ておくべき資質態度について考察する。(学級活動 1)
6	担任として育ておくべき、コミュニケーションスキルについて体験的に学ぶ。現在実践をおこなっている人の事例から、実際の高校現場で展開されている特別活動の内容を体験し、担任としての役割や関わりのあり方を考察する。(学級活動 2)
7	担任が行う学級活動の“要”が、話し合い活動の指導であることに留意させる。合意形成のワークを受講者が体験することで、クラス全員が参加できる話し合いを作るには何が必要か考える。特別活動において「主体的・対話的で深い学び」を実践するアクティブラーニングの手法を知る。(学級活動 3)
8	いじめが起きない、起こっても解決できる。そんな学級、学校を創り育てることは、社会からの要請である。いじめの

科目名	特別活動指導法	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	加納 明彦				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>特別活動は「なすことによって学ぶ」を基調においた学びです。学校での様々な集団活動を通して、課題の発見や解決を経験する事で、自らが属す集団に貢献したいという意欲・態度とそのためスキルを身につける事を目標にしている。学級活動、生徒会活動、学校行事を通じて「何が出来るようになるのか」「何を学ぶか」「どのようにまなぶか」をふまえて、育成すべき資質・能力を知って特別活動への実践的な姿勢と企画力をつける事が目標です。</p>	
授業概要	
<p>対面での授業になります。</p> <p>「なすことによって学ぶ」というのが特別活動の特徴です。この授業は、受講者自身の実践を大事にします。同時に、特別活動は、広い分野の教育活動に繋がっています。広い視野で子どもの社会的な自立を支援する姿勢を育てるために。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ別に分かれてワークショップ形式で企画作りや発表などをおこなう。 ・外部からのゲストティーチャーの協力を得て実際の取り組みの課題を深める。 ・タイムリーな教材を入れるのでシラバスの変更することもあります。 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加して一緒に考えることが一番大事です。欠席しないこと。 ・特に必要な場合は、事前に読んでおくべき教材を渡します。 ・グループで話し合う機会があります。積極的に参加してください。 ・平常点の中身は、授業ごとの振り返り課題、対話やワークへの参加度、数回ある「行事の企画案作り」等の課題も含まれます。 	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	50
レポートによる試験	50

教科書			
教科書1	特にありません。適時プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	「中学校学習指導要領解説 特別活動編」		
出版社名	東山書房	著者名	文部科学省
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	対面での授業になります。
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	特別活動の指導要領上の位置付けと教育目標を理解する。受講生それぞれの、今までの学習経験を振り返り、どのような活動が、特別活動であったかを振り返る。特別活動が実際に展開される場が、学級活動・生徒会活動・学校行事であること、ここでの活動が学校全体の教育課程の遂行の中での重要な位置であることを理解させる。(基礎 1)
2	新学習指導要領改訂による特別活動で育てたい資質・能力の具体について、従来の指導要領の「望ましい集団活動を通して」との教育目標の継承発展の視点で理解する。(基礎 2)
3	改訂の中心となる考え方である「社会に開かれた教育課程」についてその意義と具体的な内容を理解する。地元の学校で活動している SSW やサポーターの実践例を知り社会に開かれた学校の意義を理解する。(基礎 3)
4	特別活動の教育理念の基底にある「なすことによって学ぶ」の意味について、体験学習のプロセスの理解や、PDCA サイクルを学ぶことによって、特別活動のカリキュラムを効果的に構成するマネジメントの発想を学ぶ。(基礎 4)
5	学級活動は、特別活動が展開される拠点である。学級は、生徒にとっては身近な社会生活と言える。学級づくりを通しての人間関係の築き方などを学ぶ。そこで育てた力が実社会に出ても活用できる力に繋がる。支持的風土の醸成された学級づくりに向けた学級活動の課題と目標について理解する。担任として育ておくべき資質態度について考察する。(学級活動 1)
6	担任として育ておくべき、コミュニケーションスキルについて体験的に学ぶ。現在実践をおこなっている人の事例から、実際の高校現場で展開されている特別活動の内容を体験し、担任としての役割や関わりのあり方を考察する。(学級活動 2)
7	担任が行う学級活動の“要”が、話し合い活動の指導であることに留意させる。合意形成のワークを受講者が体験することで、クラス全員が参加できる話し合いを作るには何が必要か考える。特別活動において「主体的・対話的で深い学び」を実践するアクティブラーニングの手法を知る。(学級活動 3)
8	いじめが起きない、起こっても解決できる。そんな学級、学校を創り育てることは、社会からの要請である。いじめの

科目名	教育方法論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度前期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
子どもたちが「生きる力」を身につけ、これからの社会に適応していくために必要となる資質や能力を育成するために必要な教育方法や学級経営の技術などに関する基礎的な知識を身につけることを目的とする	
到達目標①:教育方法の基礎的な知識・技術を理解すること	
到達目標②:教育目的に適した教育方法、指導方法を理解すること	
到達目標③:子どもたちに必要となる資質や能力育成のために適した教育方法・指導方法を選択できるようになること	
授業概要	
教育方法や指導方法(技術)の基礎的事項、教育方法の種類や意義について解説を行います。また専門的内容にとどまらず、子どもの教育について新しい発見があるような身近な内容も扱います。なお講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
定期試験	70%
授業内で行う小テスト	30%

教科書			
教科書1	よくわかる授業論		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中 耕治
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
公認心理師、小学校非常勤講師としての実務経験を活かした講義を行う。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクションと導入 (授業の進め方, 成績評価方法の説明, 導入課題)
2	授業づくりの基礎(授業とは, 教育の歴史), 学力問題と授業づくりの課題(授業づくりと学力の育成, 「生きる力」「確かな学力」の育成)
3	授業における子どもの学び, 教育目標・内容の設定(学習指導要領と指導内容の計画), 教材開発と授業の構想①(教育内容と教材・教具, 教材解釈と教材開発, 教材としての教科書)
4	教材開発と授業の構想②(教室環境のデザイン, 教育メディア・ICT の効果的活用, 学習指導案の作成)
5	学習形態の工夫(一斉授業と個に応じた指導, 協同学習, 問題解決学習, 表現活動)
6	授業展開を導く教授行為(授業の流れの作り方, 板書法, 教師の指導行動(発言))教育評価を活かした授業づくり①(授業づくりにおける教育評価の位置づけ, 診断的評価・形成的評価・総括的評価)
7	教育評価を活かした授業づくり②(子どもの「つまずき」を生かす, 学習の歩みと記録:通知表とポートフォリオ), 学級編成と学級経営, 生活指導(学級とは, 学級経営と生活指導, 学級崩壊)
8	特別なニーズをもつ子どもへの対応①(発達障害とは, 学校で起こりやすい発達の・心理的問題)
9	特別なニーズをもつ子どもたちへの対応②(特別支援教育とは, 特別なニーズをもつ子どもにアプローチするための引き出しを増やす)
10	特別なニーズをもつ子どもへの対応③(課題のある子どもを学級でどう生かすか, インクルーシブ教育とUD 授業)
11	各領域における授業づくり①(国語科, 算数・数学科, 理科, 社会化の授業づくり)
12	各領域における授業づくり②(英語科, 図画工作・美術科, 音楽科, 体育科の授業づくり)
13	各領域における授業づくり③(技術・家庭科, 道徳, 生活科, 総合的な学習の授業づくり)
14	教育と教育方法をめぐる現代的課題(日本型高学力の問題と学びからの逃走, 学力低下とゆとり教育・新学力観, 教師の働き方改革とバーンアウト)
15	これまでのまとめ

科目名	教育方法論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
子どもたちが「生きる力」を身につけ、これからの社会に適応していくために必要となる資質や能力を育成するために必要な教育方法や学級経営の技術などに関する基礎的な知識を身につけることを目的とする	
到達目標①:教育方法の基礎的な知識・技術を理解すること	
到達目標②:教育目的に適した教育方法, 指導方法を理解すること	
到達目標③:子どもたちに必要となる資質や能力育成のために適した教育方法・指導方法を選択できるようになること	
授業概要	
教育方法や指導方法(技術)の基礎的事項, 教育方法の種類や意義について解説を行います。また専門的内容にとどまらず, 子どもの教育について新しい発見があるような身近な内容も扱います。なお講義内容や進度は, 受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
定期試験	70%
授業内で行う小テスト	30%

教科書			
教科書1	よくわかる授業論		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中 耕治
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
公認心理師、小学校非常勤講師としての実務経験を活かした講義を行う。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクションと導入 (授業の進め方, 成績評価方法の説明, 導入課題)
2	授業づくりの基礎(授業とは, 教育の歴史), 学力問題と授業づくりの課題(授業づくりと学力の育成, 「生きる力」「確かな学力」の育成)
3	授業における子どもの学び, 教育目標・内容の設定(学習指導要領と指導内容の計画), 教材開発と授業の構想①(教育内容と教材・教具, 教材解釈と教材開発, 教材としての教科書)
4	教材開発と授業の構想②(教室環境のデザイン, 教育メディア・ICT の効果的活用, 学習指導案の作成)
5	学習形態の工夫(一斉授業と個に応じた指導, 協同学習, 問題解決学習, 表現活動)
6	授業展開を導く教授行為(授業の流れの作り方, 板書法, 教師の指導行動(発言))教育評価を活かした授業づくり①(授業づくりにおける教育評価の位置づけ, 診断的評価・形成的評価・総括的評価)
7	教育評価を活かした授業づくり②(子どもの「つまずき」を生かす, 学習の歩みと記録:通知表とポートフォリオ), 学級編成と学級経営, 生活指導(学級とは, 学級経営と生活指導, 学級崩壊)
8	特別なニーズをもつ子どもへの対応①(発達障害とは, 学校で起こりやすい発達の・心理的問題)
9	特別なニーズをもつ子どもたちへの対応②(特別支援教育とは, 特別なニーズをもつ子どもにアプローチするための引き出しを増やす)
10	特別なニーズをもつ子どもへの対応③(課題のある子どもを学級でどう生かすか, インクルーシブ教育とUD 授業)
11	各領域における授業づくり①(国語科, 算数・数学科, 理科, 社会化の授業づくり)
12	各領域における授業づくり②(英語科, 図画工作・美術科, 音楽科, 体育科の授業づくり)
13	各領域における授業づくり③(技術・家庭科, 道徳, 生活科, 総合的な学習の授業づくり)
14	教育と教育方法をめぐる現代的課題(日本型高学力の問題と学びからの逃走, 学力低下とゆとり教育・新学力観, 教師の働き方改革とバーンアウト)
15	これまでのまとめ

科目名	教育方法論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
子どもたちが「生きる力」を身につけ、これからの社会に適応していくために必要となる資質や能力を育成するために必要な教育方法や学級経営の技術などに関する基礎的な知識を身につけることを目的とする	
到達目標①:教育方法の基礎的な知識・技術を理解すること	
到達目標②:教育目的に適した教育方法、指導方法を理解すること	
到達目標③:子どもたちに必要となる資質や能力育成のために適した教育方法・指導方法を選択できるようになること	
授業概要	
教育方法や指導方法(技術)の基礎的事項、教育方法の種類や意義について解説を行います。また専門的内容にとどまらず、子どもの教育について新しい発見があるような身近な内容も扱います。なお講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
定期試験	70%
授業内で行う小テスト	30%

教科書			
教科書1	よくわかる授業論		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中 耕治
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
公認心理師、小学校非常勤講師としての実務経験を活かした講義を行う。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクションと導入 (授業の進め方, 成績評価方法の説明, 導入課題)
2	授業づくりの基礎(授業とは, 教育の歴史), 学力問題と授業づくりの課題(授業づくりと学力の育成, 「生きる力」「確かな学力」の育成)
3	授業における子どもの学び, 教育目標・内容の設定(学習指導要領と指導内容の計画), 教材開発と授業の構想①(教育内容と教材・教具, 教材解釈と教材開発, 教材としての教科書)
4	教材開発と授業の構想②(教室環境のデザイン, 教育メディア・ICT の効果的活用, 学習指導案の作成)
5	学習形態の工夫(一斉授業と個に応じた指導, 協同学習, 問題解決学習, 表現活動)
6	授業展開を導く教授行為(授業の流れの作り方, 板書法, 教師の指導行動(発言))教育評価を活かした授業づくり①(授業づくりにおける教育評価の位置づけ, 診断的評価・形成的評価・総括的評価)
7	教育評価を活かした授業づくり②(子どもの「つまずき」を生かす, 学習の歩みと記録:通知表とポートフォリオ), 学級編成と学級経営, 生活指導(学級とは, 学級経営と生活指導, 学級崩壊)
8	特別なニーズをもつ子どもへの対応①(発達障害とは, 学校で起こりやすい発達の・心理的問題)
9	特別なニーズをもつ子どもたちへの対応②(特別支援教育とは, 特別なニーズをもつ子どもにアプローチするための引き出しを増やす)
10	特別なニーズをもつ子どもへの対応③(課題のある子どもを学級でどう生かすか, インクルーシブ教育とUD 授業)
11	各領域における授業づくり①(国語科, 算数・数学科, 理科, 社会化の授業づくり)
12	各領域における授業づくり②(英語科, 図画工作・美術科, 音楽科, 体育科の授業づくり)
13	各領域における授業づくり③(技術・家庭科, 道徳, 生活科, 総合的な学習の授業づくり)
14	教育と教育方法をめぐる現代的課題(日本型高学力の問題と学びからの逃走, 学力低下とゆとり教育・新学力観, 教師の働き方改革とバーンアウト)
15	これまでのまとめ

科目名	生徒指導と進路指導論【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度前期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>情報化が進展する現代社会で発生する児童生徒の問題行動等の背景には、規範意識や倫理観の低下が関係していると指摘されている。生徒指導は一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。生徒指導と進路指導論では、教員に求められる基本的資質、子供理解、学習指導、組織の運営参画などの知識や技能を、演習や対話などを通じて習得できるように取り組む。</p>	
授業概要	
<p>「生徒指導」は「学習指導」と並んで学校教育で重要な意義を持つものである。校則違反、飲酒喫煙、薬物乱用、窃盗、万引きなどの反社会的問題行動の実態と原因について理解を図る。また、問題行動はなぜ発生するのかを考え、日常の学校生活をどう取り組むべきかを考察する。学校においてわかる授業を創ること、自尊感情を育成すること、将来の目的意識を醸成すること等、生徒の将来に向けて実践すべき内容や生徒指導のあり方を考える。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>生徒にとって楽しい学校とは、どのようにすればよいかということの基本とし、学校生活、家庭生活をどう過ごさせるかを考える。教育を取り巻く社会状況の変化や新聞・マスメディアなどのニュースに関心を持つ。生徒に学ぶことの意味や、学校の教育活動をどのように計画するか、自身の中高生での経験を活かし、教員としての学習指導、生徒指導、学級経営、進路指導の在り方を考察し研究を進める。配布資料の要点の整理を通じて教員としての指導力を高める。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
レポート 1～6	30%
課題論文 1～5	40%
期末筆記試験	30%

教科書			
教科書1	生徒指導提要		
出版社名	教育図書株式会社	著者名	文部科学省
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
中学校教諭 学年主任 生徒指導主事 教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 中学校校長	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	生徒指導と進路指導論のシラバスと授業方針を知る。生徒指導提要の構成の理解と活用の意義を学ぶ。 学級の荒れが始まる時を考える。
2	生徒指導は学校生活のすべてに作用する教育機能。生徒指導の体制づくり。生徒指導体制の確立の意義。 学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることを目指す。
3	個別課題への対応Ⅰ 校則違反、飲酒・喫煙、規範意識の育成。 規範とは、特定の人々の間で個人が同調することを期待されている行動、あるいは評価の規準。
4	個別課題への対応Ⅱ 薬物乱用、窃盗・万引き、問題行動 家庭裁判所の審判に付す少年 犯罪少年、触法少年、虞犯少年、児童相談所の役割 等
5	個別課題への対応Ⅲ 暴力行為、いじめ 学級崩壊 暴力行為は、対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物破損 の 4 形態に分ける。
6	個別課題への対応Ⅳ いじめ いじめ問題の早期発見・早期指導 いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こりえるものであること。
7	個別課題への対応Ⅴ 家出・プチ家出 性非行 家出を原因別に分類すると家庭関係、次いで学業関係。 性にかかわる問題を起こす生徒の多くに、「親の愛情飢餓」の状態が見受けられる。
8	個別課題への対応Ⅵ 不登校 不登校の解決は「心の問題」のみではなく広く「進路の問題」として とらえることが大切。学校内の解決策として通いたくなる学校、信頼溢れる学校づくりを進める。
9	学校教育の最近の事例を考えるⅠ 将来への目的意識の醸成 キャリア教育の推進。キャリア教育を構成 する4つの力は、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力である。
10	学校教育の最近の事例を考えるⅡ インターネット・ケータイ問題、IT 社会の諸課題 メディア・リテラシー教育とは、コンピューター等の情報媒体に関する知識や活用能力のこと。
11	学校教育の最近の事例を考えるⅢ 命の教育と自殺防止 命の認識への働きかけ 自殺の危険因子とは 自殺未遂歴、心の病、孤立感、事故傾性

科目名	生徒指導と進路指導論【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>情報化が進展する現代社会で発生する児童生徒の問題行動等の背景には、規範意識や倫理観の低下が関係していると指摘されている。生徒指導は一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。生徒指導と進路指導論では、教員に求められる基本的資質、子供理解、学習指導、組織の運営参画などの知識や技能を、演習や対話などを通じて習得できるように取り組む。</p>	
授業概要	
<p>「生徒指導」は「学習指導」と並んで学校教育で重要な意義を持つものである。校則違反、飲酒喫煙、薬物乱用、窃盗、万引きなどの反社会的問題行動の実態と原因について理解を図る。また、問題行動はなぜ発生するのかを考え、日常の学校生活をどう取り組むべきかを考察する。学校においてわかる授業を創ること、自尊感情を育成すること、将来の目的意識を醸成すること等、生徒の将来に向けて実践すべき内容や生徒指導のあり方を考える。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>生徒にとって楽しい学校とは、どのようにすればよいかということの基本とし、学校生活、家庭生活をどう過ごさせるかを考える。教育を取り巻く社会状況の変化や新聞・マスメディアなどのニュースに関心を持つ。生徒に学ぶことの意味や、学校の教育活動をどのように計画するか、自身の中高生での経験を活かし、教員としての学習指導、生徒指導、学級経営、進路指導の在り方を考察し研究を進める。配布資料の要点の整理を通じて教員としての指導力を高める。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
レポート 1～6	30%
課題論文 1～5	40%
期末筆記試験	30%

教科書			
教科書1	生徒指導提要		
出版社名	教育図書株式会社	著者名	文部科学省
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
中学校教諭 学年主任 生徒指導主事 教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 中学校校長	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	生徒指導と進路指導論のシラバスと授業方針を知る。生徒指導提要の構成の理解と活用の意義を学ぶ。 学級の荒れが始まる時を考える。
2	生徒指導は学校生活のすべてに作用する教育機能。生徒指導の体制づくり。生徒指導体制の確立の意義。 学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることを目指す。
3	個別課題への対応Ⅰ 校則違反、飲酒・喫煙、規範意識の育成。 規範とは、特定の人々の間で個人が同調することを期待されている行動、あるいは評価の規準。
4	個別課題への対応Ⅱ 薬物乱用、窃盗・万引き、問題行動 家庭裁判所の審判に付す少年 犯罪少年、触法少年、虞犯少年、児童相談所の役割 等
5	個別課題への対応Ⅲ 暴力行為、いじめ 学級崩壊 暴力行為は、対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物破損 の 4 形態に分ける。
6	個別課題への対応Ⅳ いじめ いじめ問題の早期発見・早期指導 いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こりえるものであること。
7	個別課題への対応Ⅴ 家出・プチ家出 性非行 家出を原因別に分類すると家庭関係、次いで学業関係。 性にかかわる問題を起こす生徒の多くに、「親の愛情飢餓」の状態が見受けられる。
8	個別課題への対応Ⅵ 不登校 不登校の解決は「心の問題」のみではなく広く「進路の問題」として とらえることが大切。学校内の解決策として通いたくなる学校、信頼溢れる学校づくりを進める。
9	学校教育の最近の事例を考えるⅠ 将来への目的意識の醸成 キャリア教育の推進。キャリア教育を構成 する4つの力は、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力である。
10	学校教育の最近の事例を考えるⅡ インターネット・ケータイ問題、IT 社会の諸課題 メディア・リテラシー教育とは、コンピューター等の情報媒体に関する知識や活用能力のこと。
11	学校教育の最近の事例を考えるⅢ 命の教育と自殺防止 命の認識への働きかけ 自殺の危険因子とは 自殺未遂歴、心の病、孤立感、事故傾性

科目名	生徒指導と進路指導論【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標					
<p>情報化が進展する現代社会で発生する児童生徒の問題行動等の背景には、規範意識や倫理観の低下が関係していると指摘されている。生徒指導は一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。生徒指導と進路指導論では、教員に求められる基本的資質、子供理解、学習指導、組織の運営参画などの知識や技能を、演習や対話などを通じて習得できるように取り組む。</p>					
授業概要					
<p>「生徒指導」は「学習指導」と並んで学校教育で重要な意義を持つものである。校則違反、飲酒喫煙、薬物乱用、窃盗、万引きなどの反社会的問題行動の実態と原因について理解を図る。また、問題行動はなぜ発生するのかを考え、日常の学校生活をどう取り組むべきかを考察する。学校においてわかる授業を創ること、自尊感情を育成すること、将来の目的意識を醸成すること等、生徒の将来に向けて実践すべき内容や生徒指導のあり方を考える。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>生徒にとって楽しい学校とは、どのようにすればよいかということの基本とし、学校生活、家庭生活をどう過ごさせるかを考える。教育を取り巻く社会状況の変化や新聞・マスメディアなどのニュースに関心を持つ。生徒に学ぶことの意味や、学校の教育活動をどのように計画するか、自身の中高生での経験を活かし、教員としての学習指導、生徒指導、学級経営、進路指導の在り方を考察し研究を進める。配布資料の要点の整理を通じて教員としての指導力を高める。</p>					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
レポート 1～6	30%
課題論文 1～5	40%
期末筆記試験	30%

教科書			
教科書1	生徒指導提要		
出版社名	教育図書株式会社	著者名	文部科学省
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
中学校教諭 学年主任 生徒指導主事 教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 中学校校長	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	生徒指導と進路指導論のシラバスと授業方針を知る。生徒指導提要の構成の理解と活用の意義を学ぶ。 学級の荒れが始まる時を考える。
2	生徒指導は学校生活のすべてに作用する教育機能。生徒指導の体制づくり。生徒指導体制の確立の意義。 学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることを目指す。
3	個別課題への対応Ⅰ 校則違反、飲酒・喫煙、規範意識の育成。 規範とは、特定の人々の間で個人が同調することを期待されている行動、あるいは評価の規準。
4	個別課題への対応Ⅱ 薬物乱用、窃盗・万引き、問題行動 家庭裁判所の審判に付す少年 犯罪少年、触法少年、虞犯少年、児童相談所の役割 等
5	個別課題への対応Ⅲ 暴力行為、いじめ 学級崩壊 暴力行為は、対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物破損 の 4 形態に分ける。
6	個別課題への対応Ⅳ いじめ いじめ問題の早期発見・早期指導 いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こりえるものであること。
7	個別課題への対応Ⅴ 家出・プチ家出 性非行 家出を原因別に分類すると家庭関係、次いで学業関係。 性にかかわる問題を起こす生徒の多くに、「親の愛情飢餓」の状態が見受けられる。
8	個別課題への対応Ⅵ 不登校 不登校の解決は「心の問題」のみではなく広く「進路の問題」として とらえることが大切。学校内の解決策として通いたくなる学校、信頼溢れる学校づくりを進める。
9	学校教育の最近の事例を考えるⅠ 将来への目的意識の醸成 キャリア教育の推進。キャリア教育を構成 する4つの力は、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力である。
10	学校教育の最近の事例を考えるⅡ インターネット・ケータイ問題、IT 社会の諸課題 メディア・リテラシー教育とは、コンピューター等の情報媒体に関する知識や活用能力のこと。
11	学校教育の最近の事例を考えるⅢ 命の教育と自殺防止 命の認識への働きかけ 自殺の危険因子とは 自殺未遂歴、心の病、孤立感、事故傾性

科目名	教育相談	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>今日学校現場で起こっている様々な問題について、心理学や教育相談の観点から捉える能力を身につけ、多職種と連携してアプローチする視点を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標 1:教育相談の理論と方法について理解すること</p> <p>到達目標2:教師を始めとした対人援助職に求められる臨床的視点を身に付けること</p> <p>到達目標3:子どもの発達状況を理解し、それに対してどのような支援を行うことができるかを提案できるようになること</p> <p>到達目標4:子どもの保護者の立場や思いについて想像し、どのような支援を行うことができるかを提案できるように</p>	
授業概要	
<p>教育相談の理論及び方法について講義形式で解説を行います。加えて、学校を含む様々な場面で出会う子ども及びその保護者の困り感に、どのように対処、支援していく必要があるのかをグループワークやロールプレイを交えながら考えていきます。なお講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>グループワークやロールプレイを行う上で、発達心理学分野や教育心理学分野の知識が必要となることがありますので、必要に応じて読んでおくべき文献などを指示します。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
最終課題(レポート)	60%
授業内で取り組む課題(小レポート)	30%
グループワークやロールプレイへの参加度	10%

教科書			
教科書1	【改訂版】教育相談ワークブックー子どもを育む人になるためにー		
出版社名	北樹出版	著者名	桜井 美加・齋藤 ユリ・森平 直子
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	生徒指導提要		
出版社名		著者名	文部科学省
参考書名2	臨床家のための DSM-5 虎の巻		

科目名	教育相談	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>今日学校現場で起こっている様々な問題について、心理学や教育相談の観点から捉える能力を身につけ、多職種と連携してアプローチする視点を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標 1:教育相談の理論と方法について理解すること</p> <p>到達目標2:教師を始めとした対人援助職に求められる臨床的視点を身に付けること</p> <p>到達目標3:子どもの発達状況を理解し、それに対してどのような支援を行うことができるかを提案できるようになること</p> <p>到達目標4:子どもの保護者の立場や思いについて想像し、どのような支援を行うことができるかを提案できるように</p>	
授業概要	
<p>教育相談の理論及び方法について講義形式で解説を行います。加えて、学校を含む様々な場面で出会う子ども及びその保護者の困り感に、どのように対処、支援していく必要があるのかをグループワークやロールプレイを交えながら考えていきます。なお講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>グループワークやロールプレイを行う上で、発達心理学分野や教育心理学分野の知識が必要となる場合がありますので、必要に応じて読んでおくべき文献などを指示します。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
最終課題(レポート)	60%
授業内で取り組む課題(小レポート)	30%
グループワークやロールプレイへの参加度	10%

教科書			
教科書1	【改訂版】教育相談ワークブックー子どもを育む人になるためにー		
出版社名	北樹出版	著者名	桜井 美加・齋藤 ユリ・森平 直子
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	生徒指導提要		
出版社名		著者名	文部科学省
参考書名2	臨床家のための DSM-5 虎の巻		

科目名	教育相談	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>今日学校現場で起こっている様々な問題について、心理学や教育相談の観点から捉える能力を身につけ、多職種と連携してアプローチする視点を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標 1:教育相談の理論と方法について理解すること</p> <p>到達目標2:教師を始めとした対人援助職に求められる臨床的視点を身に付けること</p> <p>到達目標3:子どもの発達状況を理解し、それに対してどのような支援を行うことができるかを提案できるようになること</p> <p>到達目標4:子どもの保護者の立場や思いについて想像し、どのような支援を行うことができるかを提案できるように</p>	
授業概要	
<p>教育相談の理論及び方法について講義形式で解説を行います。加えて、学校を含む様々な場面で出会う子ども及びその保護者の困り感に、どのように対処、支援していく必要があるのかをグループワークやロールプレイを交えながら考えていきます。なお講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>グループワークやロールプレイを行う上で、発達心理学分野や教育心理学分野の知識が必要となる場合がありますので、必要に応じて読んでおくべき文献などを指示します。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
最終課題(レポート)	60%
授業内で取り組む課題(小レポート)	30%
グループワークやロールプレイへの参加度	10%

教科書			
教科書1	【改訂版】教育相談ワークブックー子どもを育む人になるためにー		
出版社名	北樹出版	著者名	桜井 美加・齋藤 ユリ・森平 直子
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	生徒指導提要		
出版社名		著者名	文部科学省
参考書名2	臨床家のための DSM-5 虎の巻		

科目名	教育実習 I (指導) 【19 以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	武村 泰宏				
クラス名					

授業目的と到達目標	
授業概要	
<p>対面授業</p> <p>教育現場における教科「情報」の授業実践といった立場から、教科「情報」の学習指導要領に基づいて、情報科教育で要求される知識、技能の実践的な教授方法がどのようなものであるかを学習する。</p> <p>また、本教科の性格上、教育実習の内容や指導方法についての講義に加え、ネットワーク、プログラミング、ドローンに関する技能も、適宜、組入れて授業を進める。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>事前知識の整理および段階的着実な学習が重要である。</p> <p>また、情報科教員として高等学校に採用された本学卒業者の活動状況も紹介するので参考にしてほしい。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業課題の提出	30%
模擬授業の成果	40%
教育実習の評価	30%

教科書			
教科書 1	高等学校学習指導要領解説 情報編		
出版社名	開隆堂出版	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	アートを生み出すプログラミング		
出版社名	晃洋書房	著者名	武村泰宏
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
	<p>第 1-3 回 【対面】</p> <p>(1) 全体のガイダンス(教育実習の計画、心得等)</p> <p>(2) 教科「情報」のまとめ</p> <p>(3) 「総合的な学習の時間」との協調</p> <p>第 4-5 回【対面】</p> <p>(4) 実習授業の計画①(教材の側面から)</p> <p>(5) 実習授業の計画②(授業計画の側面から)</p> <p>第 6-7 回【対面】</p> <p>(6) 実習授業の教材作成①(情報科学の知識領域)</p> <p>(7) 実習授業の教材作成②(情報技術の技能分野)</p> <p>第 8-9 回【対面】</p> <p>(8) 実習授業の教材作成③(基礎的プログラミング領域)</p> <p>(9) 実習授業の教材作成④(応用的プログラミング領域)</p> <p>第 10-11 回【対面】</p> <p>(10) 知識領域の模擬授業実践</p> <p>(11) 技能分野の模擬授業実践</p> <p>第 12-13 回【対面】</p> <p>(12) プログラミングの模擬授業実践</p> <p>(13) 実習校での研究授業に向けての準備</p> <p>第 14-15 回【対面】</p> <p>(14) 教育実習の報告</p> <p>(15) 講評と今後に向けて</p>

科目名	教育実習 I (指導)【19 以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名	国語科免許				

授業目的と到達目標	
授業概要	
<p>対面授業</p> <p>事前指導においては、次の2点を行う。</p> <p>1 教育実習の意義と教員が果たす役割、学習指導、生徒指導、学級経営の方法などについて、講義やディスカッションを通して学ぶ。</p> <p>2 学習指導案の作成や模擬授業を通して実践感覚を養い、自己の課題を明確にする。</p> <p>事後指導においては、全体での振り返り、および個人面談による指導助言を行う。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・真摯な態度で授業に臨むこと。 ・実習校、大学との事務的な処理を迅速・確実に行うこと。 	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
実習校の評価	20
授業への積極的参加度	40
発表・課題・レポート	40

教科書			
教科書1	よくわかる教職シリーズ 教育実習安心ハンドブック		
出版社名	学事出版	著者名	小山茂樹 編著
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	教育実習 I (指導) 【19 以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名	音楽科免許				

授業目的と到達目標	
授業概要	
[対面授業]	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を理解し、学習指導案を適切に作成することができる。 ・音楽科教員として、魅力ある楽しい授業作りができる。 ・指導案作成や模擬授業を通して教育実習に臨む力を育成する。 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義と心構えを理解し、真摯な態度で受講する。 ・音楽科教員として専門性を高める意識を持つ。 ・生徒にとって分かりやすい、楽しい授業作りの視点を持つ。 ・あいさつ、コミュニケーションを大切にす。 	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
学習指導案・模擬授業・ワークシート・レポート/・教育実習等	70
平常点	30

教科書			
教科書 1	中学校学習指導要領解説一音楽編		
出版社名		著者名	文部科学省
教科書 2	中学生の音楽 1/2・3上下 中学生の器楽		
出版社名		著者名	教育芸術社
教科書 3	中学音楽 音楽のおくりもの1/2・3上下 中学器楽		
出版社名		著者名	教育出版

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			

科目名	教育実習 I (指導) 【19 以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名	音楽科免許				

授業目的と到達目標	
授業概要	
[対面授業]	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を理解し、学習指導案を適切に作成することができる。 ・音楽科教員として、魅力ある楽しい授業作りができる。 ・指導案作成や模擬授業を通して教育実習に臨む力を育成する。 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義と心構えを理解し、真摯な態度で受講する。 ・音楽科教員として専門性を高める意識を持つ。 ・生徒にとって分かりやすい、楽しい授業作りの視点を持つ。 ・あいさつ、コミュニケーションを大切にす。 	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
学習指導案・模擬授業・ワークシート・レポート・教育実習等	70
平常点	30

教科書			
教科書1	中学校学習指導要領解説一音楽編		
出版社名		著者名	文部科学省
教科書2	中学生の音楽 1/2・3上下 中学生の器楽		
出版社名		著者名	教育芸術社
教科書3	中学音楽 音楽のおくりもの1/2・3上下 中学器楽		
出版社名		著者名	教育出版

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	教育実習 I (指導)【19 以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	美術科・工芸科免許				

授業目的と到達目標	
授業概要	
<p>実習校での生徒や教職員との人間関係を円滑に構築するため、挨拶や声掛けなどのコミュニケーション力の向上と社会性の育成に努める。教員に求められる指導力を学び、教職に対する意欲の向上と目標の具体化を図る。美術科学習指導案に基づき、具体的な授業が展開できるよう、生徒への話し方、導入・展開の発問、板書の仕方、参考作品の提示など生徒を引き付ける要点について学ぶ。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>教科書研究(3H)学習指導要領の理解(1H)挨拶の練習(1H)学級活動での話題(1H)準備教育実習で学ぶという意義と心構えをよく理解し、真摯な態度で参加すること。授業の目標を明確にし、生徒がわかりやすい授業をどのように創造するかを考え授業計画を立案する。挨拶の大切さを理解し、生徒に積極的に声掛けを行うなどコミュニケーション力を高めるよう努力する。実習期間中での活動はすべて実習ノートに記録し、一日の学校生活を振り返り、成果と課題を整理する習慣を身につける。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
美術科学習指導案	20%
レポート 1.2.3.4	20%
模擬授業評価点	20%
美術教育鑑賞テスト	20%
教育実習の成績	20%

教科書			
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省
教科書2	高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編		
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	美術資料		
出版社名	株式会社秀学社	著者名	京都市立大学美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭	教育委員会指導部	中学校教育課指導主事	教育委員会教務部 教職員課管理主事 中学校校長

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習生の心得を学ぶ。中学校・高等学校の教育活動の現状について理解する。 2. 教育実習 I のシラバスと授業方針を知る。教育実習の意義と基本的態度を理解する。 3. 実習校との打ち合わせと教育指導の計画について理解する。学習指導要領解説美術編の教科の目標を理解し、学習指導案の作成の基礎・基本を学ぶ。 4. 中学校・高等学校の学習指導要領、1.総説、2.美術科の目標及び内容、3.各学年の目標及び内容、4.指導計画の作成 と内容の取扱いの要点を理解する。 5. 教育実習校で求められる美術科学習指導案を作成する。「美術科学習指導案」を作成し、提出期限厳守で提出する。 6. 美術科学習指導案&資料集をもとに模擬授業 1 を行う。表現・鑑賞の領域、視聴覚機器の活用班に分けて円滑に行う。 7. 模擬授業 2 を行う。挨拶や板書、参考作品の提示、発問の仕方、道具の使い方等の授業の指導ポイントを理解する。 8. 模擬授業 3 を行う。片付けの指示、制作態度の評価、自己評価カードの作成と活用に留意する。 9. 模擬授業 4 を行う。生徒の制作意欲を喚起する、励ましの言葉、声掛けの仕方の工夫。 10. 実習生の一日（学級活動、研究授業、生徒指導、特別活動、道徳指導、部活動指導など）実習ノートの記入について 理解する。 11. 話し方・挨拶練習 1 ⇒ 教職員との関係づくり、研究授業反省会での挨拶と話し方を学ぶ。 12. 話し方挨拶練習 2 ⇒ 生徒交流の仕方、全校集会、学年集会、所属学級での挨拶を通じて自分の考えを整理する。 13. 学校教育法、地方公務員法等、教員の服務規律と職務上の義務について学ぶ。 14. 教育実習の振り返りと成果の検証 教育実習の成果と課題のまとめ 班別の話し合いを通じて教育実習を総括する。

	15. 教育実習の総括から、求められる教師像、育てる生徒像とこれからの美術教育について考える。

科目名	教育実習 I (指導)【19 以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	美術科・工芸科免許				

授業目的と到達目標	
授業概要	
<p>実習校での生徒や教職員との人間関係を円滑に構築するため、挨拶や声掛けなどのコミュニケーション力の向上と社会性の育成に努める。教員に求められる指導力を学び、教職に対する意欲の向上と目標の具体化を図る。美術科学習指導案に基づき、具体的な授業が展開できるよう、生徒への話し方、導入・展開の発問、板書の仕方、参考作品の提示など生徒を引き付ける要点について学ぶ。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>教科書研究(3H)学習指導要領の理解(1H)挨拶の練習(1H)学級活動での話題(1H)準備教育実習で学ぶという意義と心構えをよく理解し、真摯な態度で参加すること。授業の目標を明確にし、生徒がわかりやすい授業をどのように創造するかを考え授業計画を立案する。挨拶の大切さを理解し、生徒に積極的に声掛けを行うなどコミュニケーション力を高めるよう努力する。実習期間中での活動はすべて実習ノートに記録し、一日の学校生活を振り返り、成果と課題を整理する習慣を身につける。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
美術科学習指導案	20%
レポート 1.2.3.4	20%
模擬授業評価点	20%
美術教育鑑賞テスト	20%
教育実習の成績	20%

教科書			
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省
教科書2	高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編		
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	美術資料		
出版社名	株式会社秀学社	著者名	京都市立大学美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL			
特記事項			
教員実務経験	中学校教諭 教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 教育委員会教務部 教職員課管理主事 中学校校長		

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習生の心得を学ぶ。中学校・高等学校の教育活動の現状について理解する。 2. 教育実習 I のシラバスと授業方針を知る。教育実習の意義と基本的態度を理解する。 3. 実習校との打ち合わせと教育指導の計画について理解する。学習指導要領解説美術編の教科の目標を理解し、学習指導案の作成の基礎・基本を学ぶ。 4. 中学校・高等学校の学習指導要領、1.総説、2.美術科の目標及び内容、3.各学年の目標及び内容、4.指導計画の作成と内容の取扱いの要点を理解する。 5. 教育実習校で求められる美術科学習指導案を作成する。「美術科学習指導案」を作成し、提出期限厳守で提出する。 6. 美術科学習指導案&資料集をもとに模擬授業 1 を行う。表現・鑑賞の領域、視聴覚機器の活用班に分けて円滑に行う。 7. 模擬授業 2 を行う。挨拶や板書、参考作品の提示、発問の仕方、道具の使い方等の授業の指導ポイントを理解する。 8. 模擬授業 3 を行う。片付けの指示、制作態度の評価、自己評価カードの作成と活用に留意する。 9. 模擬授業 4 を行う。生徒の制作意欲を喚起する、励ましの言葉、声掛けの仕方の工夫。 10. 実習生の一日（学級活動、研究授業、生徒指導、特別活動、道徳指導、部活動指導など）実習ノートの記入について理解する。 11. 話し方・挨拶練習 1 ⇒ 教職員との関係づくり、研究授業反省会での挨拶と話し方を学ぶ。 12. 話し方挨拶練習 2 ⇒ 生徒交流の仕方、全校集会、学年集会、所属学級での挨拶を通じて自分の考えを整理する。 13. 学校教育法、地方公務員法等、教員の服務規律と職務上の義務について学ぶ。 14. 教育実習の振り返りと成果の検証 教育実習の成果と課題のまとめ 班別の話し合いを通じて教育実習を総括する。

科目名	教職実践演習(中・高)	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	演習		
教員名	○尾張 佳子、土屋 尚子				
クラス名	教員免許取得				

授業目的と到達目標	
授業概要	
[対面授業] <ul style="list-style-type: none"> ・事例研究やグループなど演習を中心ぶ授業を行う。 ・教員に求められる資質能力を理解し、その向上を目指す態度を養う。 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員になる上での自己の課題を自覚し、真摯な態度で受講する。 ・教員として専門性を高める意識を持つ。 ・幅広い視野を持ち、指導者としての自覚を持つ。 ・あいさつ、コミュニケーションを大切にす。 	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
ワークシート・レポート・提出物等	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

科目名	教職実践演習(中・高)	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	演習		
教員名	○尾張 佳子、土屋 尚子				
クラス名	教員免許取得				

授業目的と到達目標	
授業概要	
[対面授業]	
<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究やグループなど演習を中心ぶ授業を行う。 ・教員に求められる資質能力を理解し、その向上を目指す態度を養う。 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員になる上での自己の課題を自覚し、真摯な態度で受講する。 ・教員として専門性を高める意識を持つ。 ・幅広い視野を持ち、指導者としての自覚を持つ。 ・あいさつ、コミュニケーションを大切にす。 	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
ワークシート・レポート・提出物等	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

科目名	情報メディアの活用	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 前期	形態	講義		
教員名	松井 純子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>司書教諭に求められる情報メディア活用の基礎知識と実践的な技能を習得する。</p> <p>(1)情報メディアの種類と特性について理解する。</p> <p>(2)情報検索の知識と技能を習得する。</p> <p>(3)パスファインダーの作成を通じて、情報活用能力の育成方法を具体的に把握する。</p>	
授業概要	
<p>インターネットと情報環境の進展を背景に、学校図書館に対して多様なメディアの活用が要請されている。また、児童・生徒の情報活用能力の育成も、学校図書館の重要な役割である。</p> <p>ここでは、情報メディアの種類と特性、情報検索の基礎などを述べた上で、多様な Web サイトやオンラインデータベースなどの検索演習を通じて、情報活用能力育成のための具体的方法を示す。さらにパスファインダーの作成を通じて、それらの具体化を図る。著作権や情報モラルに関わる問題も取り上げる。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>司書教諭は、教師として児童・生徒を指導する立場であることは言うまでもない。したがって、教師としての意識・自覚を持って受講すること。また、各回の授業テーマについて、受け身でなく、自分自身で考えるようにしてほしい。</p> <p>遅刻・欠席は厳禁。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
パスファインダーの作成・提出・プレゼンテーション	50
検索演習課題の提出	10
平常点(ミニレポート、授業への取り組み姿勢)	40

教科書			
教科書1	使用しない。プリントを配布。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	情報を学習につなぐ:情報・メディアを活用する学び方の指導体系表解説		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	全国学校図書館協議会編

参考書名2	「アロハ図書館タイム」はじめます。:鳥取・羽合小:司書教諭による学校図書館活用授業		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	北田明美著
参考書名3	学校図書館を活用する学び方の指導:課題設定から発表まで(新しい教育をつくる司書教諭のしごと1)		
出版社名	学校図書館を活用する学び方の指導:課題設定から発表まで(新しい教育をつくる司書教諭のしごと1)	著者名	宅間紘一著
参考書名4	パスファインダーを作ろう:情報を探す道しるべ		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会著
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
[学校図書館の現状に関する調査, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1360234.htm] 【リーフレット「学校図書館を、もっと身近で、使いやすく」, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/03/22/1360321_4.pdf]
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 学校図書館の現状:文部科学省の調査結果をもとに
2	教育の情報化と学校図書館
3	学習指導要領における学校図書館と司書教諭
4	情報活用能力の育成と学校図書館 ・情報活用能力とは ・情報活用能力の育成と情報リテラシーモデル:「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」「ビッグ6」
5	情報メディアの種類と特性(1) ・鳥取・羽合小「学び方指導の内容体系表」を参考に ・パッケージ系メディア(印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディア)とネットワーク系メディア(インターネット、オンラインデータベース)
6	情報メディアの種類と特性(2)情報メディアの収集・保存・提供とその特徴
7	学校図書館とコンピュータの活用
8	調べ学習とインターネットの活用(1) ・情報検索とインターネット ・検索エンジンの特性と検索機能 ・検索演習

科目名	教職教養演習 I (発展) 【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	教職教養演習 I (基礎)				

授業目的と到達目標	
授業概要	
<p>教員採用試験に関する教職教養や専門知識を確実に習得するなど、教員としての専門性を高める指導を充実する。中央教育審議会の答申や学習指導要領の総則、教科の目標等をよく理解し、教育の方向性と正しい学習指導案が作成できる資質を獲得する。面接個票・エントリーシートの作成を通して、めざす教師像、育てる生徒像、取り組みたい授業論を確立する。面接練習や集団討論を通じて、自分の考えを簡潔に話す練習を重ねる。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>世界の動きと社会の変化や教育に関するマスメディアの動きに関心を持つこと。教育を取り巻く世界の状況をよく理解し、習得すべき内容を確実に身に付けるように努力する。教師の専門性を高めるという意識を持って参加すること。挨拶の大切さを理解し、日常生活の中で明るく元気に挨拶する習慣をつける。教職に対する情熱を失わず教員採用テストに向けた情報・資質を確実に習得できるように努力する。教職に対するマイナスイメージが多く報道されているが、めざすを確かに持って着実にスキルアップを図ること。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
自己分析フレームシート	20%
教育課題 論文	20%
面接練習・評価点	20%
教職教養小テスト	20%
エントリーシート	20%

教科書			
教科書1	オープンセサミシリーズ教員採用試験参考書 1.2		
出版社名	七賢出版株式会社	著者名	東京アカデミー
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭	教育委員会指導部	中学校教育課指導主事	教育委員会教務部 教職員課管理主事 中学校校長

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
	<p>1. 教職教養演習 I のシラバスと授業方針を理解する。受験自治体の教員採用情報の収集と学習計画の立案。 受講カードの記入、自己分析プロデュース企画書の記入。</p> <p>2. 中央教育審議会の答申と学習指導要領の要点を学ぶ。 教育原理 学習指導要領関連の小テスト 1。</p> <p>3. 学習指導要領の総則の内容と教科の目標を理解する。 教科の目標を理解し、教科指導のこれからの方向性を理解する。</p> <p>4. 面接の基本、面接官の基本的な質問内容を知る。 教職教養演習の小テスト 2</p> <p>5. 学習指導と生徒指導について学ぶ。 教育史の小テスト 3</p> <p>6. 教育基本法について学ぶ。 教育心理の小テスト 4</p> <p>7. 教員採用の模擬試験① 大阪市などの一次採用テストの過去問題を活用した模擬テスト</p> <p>8. 教育課題の論文 1「めざす教師像」 教員として各自が目指す教師像について考えをまとめる。</p> <p>9. 面接練習 1 予想質問に対する回答を考える。 面接の基礎・基本を学ぶ。</p> <p>10. 面接練習 2 基本的な質問例 100 についての回答を考える。 受験する自治体の求める教師像は？ 教育振興基本計画は？ 教育施策は？</p> <p>11. 教職員の服務、教育関連法規について学ぶ 地方公務員法を理解する 教育課題の論文 2「育てる生徒像」</p> <p>12. エントリーシートの記入を考える エントリーシートの記入内容について各自の経験、賞罰等を正しく記入する。</p>

科目名	教職教養演習Ⅱ 教職教養演習Ⅱ(直前)	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023年度 前期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	教員採用試験対策講座教職教養演習Ⅱ(直前)				

授業目的と到達目標
授業概要
<p>教員としての資質の向上に関する指標の基本的資質、子ども理解、学習指導、組織の運営と参画について理解する。教員採用試験に出題される教職教養や専門知識を習得し、教師としての専門性を高める。集団面接や個人面接の練習を通じて、短く簡潔に話す習慣を身につける。さらに、受験する自治体の求める教員像や教育振興基本計画を理解して正しく話す習慣を獲得する。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<p>マスメディアの情報に注意し、教育を取り巻く状況の変化を把握すること。また、習得すべき内容を確実に身に付けるための努力を怠らない。学習指導要領をよく理解し、生徒にとってわかりやすい授業について考えた学習指導案が作成できる資質を獲得する。挨拶の大切さを理解し、生徒に積極的に声掛けを行う等、生徒理解と対話力の向上に努力する。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
自己分析フレームシート	10%
面接個票・エントリーシート	10%
教育課題 論文 1. 2.	20%
教職教養小テスト	30%
教職教養模擬テスト	30%

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
中学校教諭 教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 教育委員会教務部 教職員課管理主事 中学校校長	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
	<p>1. 教職教養演習Ⅱのシラバスと授業方針を理解する。受講カードに記入し学習計画の立案を行う。 受験自治体の情報収集と学習計画の立案。</p> <p>2. 受験自治体の求める教師像、教育振興基本計画を調査し把握する。自己分析 エントリーシートの作成 めざす教師像、つくる生徒像を考える。</p> <p>3. 面接の基本を学ぶ。面接練習 基本的な動き、基本的な話し方 面接質問 100i について回答を考える。 面接質問の過去問に対する回答を理解し、練習をする。</p> <p>4. 学習指導要領の総則を理解する。教科の目標を理解する。中央教育審議会の答申を理解する。 受験の教科についての、教科の目標を理解し、目指す教師像を定める。</p> <p>5. 教育基本法について理解する。講義と演習 教育基本法の 18 条を学ぶ。</p> <p>6. 教職員の法規について理解する。講義と演習 地方公務員法を学ぶ。</p> <p>7. 面接練習 1 と小テスト 個人面接の基本的練 1 教育原理 小テスト 面接の基本的な動きを確認する。</p> <p>8. 面接練習 2 と小テスト 個人面接の基本練習 2 教育史 小テスト 面接官の視点を理解し、質問に対する話し方を考える。</p> <p>9. 第 1 次選考対策模擬テスト 1 大阪市などの過去問題を活用した直前テストを受ける 過去問題を解き、傾向と対策に生かす。</p> <p>10. 第 1 次選考対策模擬テスト 2 大阪市などの過去問題を活用した直前テストを受ける 過去問題を解き、傾向と対策に生かす。</p> <p>11. 面接練習 3 と小テスト 個人面接の基本練習 3 教育心理 小テスト 筆記試験合格後の 個人面接対策を行う。</p> <p>12. 面接練習 4 と小テスト 個人面接の基本練習 4 教育法規 小テスト 面接で必ず質問される項目について、確実な回答の練習を行う。</p>

科目名	教職教養演習Ⅱ 教職教養演習Ⅱ(直前)	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	1
授業期間	2023年度 前期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
授業概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験に向けて実技対策(ピアノ・専門楽器・弾き歌い・アルトリコーダー・和楽器等)を行う。 ・面接練習、模擬授業、場面指導対策を行う。 ・筆記試験(専門科目)対策を行う。 	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識を持って前向きに取り組む。 	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	100

教科書			
教科書1	中学生の音楽		
出版社名	教育芸術社	著者名	
教科書2	音楽のおくりもの		
出版社名	教育出版社	著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

